

＜先週の説教から＞

『詩編 98 — わたしの骨は叫ぶ』

武田真治 牧師

詩編 35 : 1~28 ヨハネ福音書 15 : 23~25

詩編に収められている一つひとつの詩のほとんどは、もともと一人の信仰者の“祈り”であったり“讚美”の言葉が元になっています。今日の詩編も、元々の“祈り人”の状況は11節の言葉によく表されています。即ち「不法の証人が数多く立ち、わたしを追求しますが、わたしの知らないことばかりです。」と。ここでの「証人」とは当時の裁判に於ける“証言者”のことです。この時代は、今のように物的証拠を積み重ねた上で有罪か、無罪かを判断する裁判とは違い、どれだけ確実な「証人」を立てることが出来るかで有罪か、無罪かが判断されていました(21節)。それ故、訴える側は特に『私は見た』とか『私は聞いた』等の証言者を用意します。そして時にはお金を物を言わせて、うその証言者を用意する行為も行われていたのです(25節、故に十戒の9番目に「あなたは偽証してはならない」と戒められている程)。まさにこの祈り人は、身に覚えのない訴えを起こされているのです。しかもその不法の証人たちは、この祈り人が「彼らの友、彼らの兄弟」のように接して来た人達でした。親しい者たち(=おそらく親戚たち)に裏切られているのです。「神を無視する者がわたしを囲んで嘲笑い、わたしに向かって歯をむき出します(=威嚇する)」と言っているのは、証言者は必ず「神様に誓って」真実を言いますと宣言しているのに、うそを言うことは「神を無視」する行為だと。故に「主よ、いつまで見ておられるのですか。彼らの謀る破滅から、わたしの魂を取り出してください。」と願っているのです。

そして、この訴えはどうやら“病い”と関係があったと思われる。「彼らが病にかかっていたとき、わたしは粗布をまわって断食して祈ったのに「わたしが倒れれば彼らは喜び、押し寄せ、わたしの知らないことについてわたしを打ち」と。想定されていることは、皆の前で重い皮膚病等に判定されると隔離され、その財産等も没収されます。「彼らは、わた

しの魂を滅ぼそうとして、子どもを奪いました。」という言葉も病による隔離を思わせませす。実際に「わたしの骨はことごとく叫びます(=熱などで骨が震える)」とありますから体の不調はあったのでしょうか。それを親戚たちが大げさに取り上げ『疫病だ、隔離しろ』と告発し、財産を奪おうとしていたとも考えられます。

ただ、この祈り人のすごさは、その自分の骨の震えを神様への「叫び」としており、しかも『主よ、あなたに並ぶものはありません』と讚美歌を叫んでいると言っています。ヨブ記のヨブに通じる信仰とも言い得ます。そして、まさに偽りの裁判の時のイエス様、そして十字架のイエス様の御姿(=『彼らを赦したまえ』)に通じるのではないのでしょうか！

\*\*\*\*\*

【今週の集会】

\*聖書研究・祈祷会 I. 8月9日(水) 20:00  
II. 8月10日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答  
 祈祷主題: お茶の会奉仕を覚えて  
 担当者: (水) 武田 (木) 阿部  
 祈りに覚える人: 坂田さん 桜井さん

【教勢報告】

主日礼拝 男16 女56 計72  
 祈祷会 I. 男6 女4 計10 II. 男1 女7 計8  
 日曜学校 幼稚科6 小中科10 計16

\*\*\*\*\*

【日次週主礼拝】 8月13日(日)

聖書: イザヤ書 53:11~12  
 ヘブライ人への手紙 13:20~25  
 説教: 「ヘブライ56・最終回— 栄光が世々限りなく」 武田真治 牧師  
 讚美歌: 401(1)、32、561(1~3)、424(1と2と4)、358(1~4)、27

【次週当番表】

司式: 羽倉長老 奏楽: 勝村 礼拝: 齋藤長老  
 献金: 鈴木 須田 受付: 鈴木 橋本  
 会堂準備: 飯島 岡本 金刺 中村 森本

看板: 岩佐 週報: 金刺 お花:

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会  
 礼拝後: ・平和祈念集会

# 週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

2023年 8月 6日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>